

新しい年を迎えまして、友相理事長に新年のインタビューを行いました。



平成 25 年 1 月 4 日 インタビュー

インタビュアー：

友相理事長、あけましておめでとうございます

友相理事長：

新年明けまして、おめでとうございます。

旧年中は、社会福祉法人とやま虹の会に対しまして、格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

どうぞ今年もよろしくお願い申し上げます。

インタビュアー：

今年はとやま虹の会にとってどんな年にしたいと思いですか

友相理事長：

私達、とやま虹の会は、昨年、法人設立 20 周年、そして今年は老人保健施設レインボー開設 20 周年を迎えるという、大変重要な節目の年となります。

私たちは、創立以来、次の理念を掲げ、この 20 年間、皆様方のご支援もいただきながら、職員と力を合わせ歩んでまいりました。

*** とやま虹の会の理念**

- 第一 私たちは高齢者の人権を尊重し、ひとりひとりの豊かな生活を築くために全力をあげます。
- 第二 私たちは福祉の専門家として、質の高い新しい介護実践と、福祉向上を不断にめざします。
- 第三 私たちは高齢者が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることができるよう、「福祉のまちづくり」を地域ぐるみで取り組みます。
- 第四 社会福祉法人とやま虹の会は、地域の方々のさまざまなご支援によって設立・運営されてきました。私たちは、みなさんとともに常に力をあわせて福祉の拡充・発展につとめます。

まだ、道半ばではございますが、この富山市水橋地区にしっかり根を下ろし、厳しさや、楽しさ、いっぱい笑顔、いっぱいの涙を地域の皆様、ご利用いただいている利用者みなさん、ご家族みなさんと職員が沢山共有できたことが何よりの宝物だと思っています。

今年は、このすばらしい宝物を、大事に保管しておくのではなく、宝物の輝きを自分たちの糧にしながら、さらに宝物を増やし、生き生きとした笑顔一杯の、とやま虹の会にしていければと思っています。

インタビュアー：

新しい事業計画についてお話しください。

友相理事長：

私たち法人の20周年の記念すべき年に、非常に嬉しいご報告がございます。

それは、この度、富山市の第5期介護保険事業計画の一つであります、特別養護老人ホームでの、新型個室・ユニット化事業の補助事業と増床事業の公募がございまして、応募していたところ、当法人のしらいわ苑が選定されました。

選定を受けた事業は、25年度事業で、26年4月開業となるもので、しらいわ苑での入所20床の増床と既存施設80床の新型個室・ユニット化事業に一定の補助を受けながら取り組むという、とやま虹の会にとりましては、あらたな事業展開への挑戦です。

インタビュアー：

しらいわ苑にとって、どんな事業となるのでしょうか。

友相理事長：

特別養護老人ホームしらいわ苑は、今から17年前に、入所者の尊厳ある生活を保障し、快適な生活空間の中で過ごしていただくこと、職員は、入所者一人ひとりの生活に寄り添いながら介護していく施設として、また、広々とした平屋の建物として、当時、全国的評価を受け開設されました。

今回の、増床・新型個室ユニット化事業は、全室新型・個室化することによって、入居者の方が、自分だけ好き勝手に使える場が確保され、ほっとする場ができ、個室も広くなり、今まで使っていた家具や、愛着ある品々を自由に持ち込むことができます。また、家族の方々も他人に遠慮することなく関わっていただきます。

インタビュアー：

それは素晴らしいことですね

友相理事長：

そうなんです。そして何よりも、入所者個人のプライバシーが保障されると共に、入所者 10 人を 1 ユニットとして、お風呂や「居間」（共同生活室）が作られ、各ユニットに固定配置された顔なじみの介護スタッフが、入居者の方々の個性や生活リズムを尊重した暮らし・生活をサポートできることになります。

このことは、しらいわ苑が掲げてきた理念と介護実践をさらにすすめ、とやま虹の会が掲げている理念に叶った施設の実現となるものと考えています。

インタビュアー：

ぜひ成功させなければいけないですね

友相理事長：

また、この事業は、とやま虹の会の今後の「中・長期総合計画」の重要な柱となる事業として、「とやま虹の会が進める地域包括ケア」構想の中に位置づけ、レインボー、しらいわ苑、訪問サービス、居宅支援事業、本部機能との一体化を図り、虹の会の総合力を効果的に発揮し、この地から高齢者福祉を発信する拠点作りとして、地域のみなさんから期待される事業となるよう、必ず成功させたいと考えています。

インタビュアー：

最後に社会福祉法人をめぐる状況についてお話しください

友相理事長：

そうですね、私達社会福祉法人をめぐる状況は、昨年 4 月の介護報酬改定にみられるように、私達の期待に反し、実質 0.8% のマイナス改定と大変厳しいものとなっております。

しかし、「2025 年問題」等と言われているように、きたるべく超高齢化社会に向けて、社会福祉法人として、とやま虹の会として、担わなければならない課題や、役割は計り知れない大きなものがあると思っています。

記念すべき 20 周年のこの年、とやま虹の会の 20 年間積み上げてきた実績に確信をもって、私たちの理念を高く掲げ、地域の方々とのネットワークをもっともっと広げ、「超高齢化社会」「無縁社会」といわれているもとの、高齢者福祉に、福祉のまちづくりに、職員と力を合わせ、頑張っていきたいと思っています。皆様方のご支援・ご鞭撻を重ねてお願い申し上げます。

インタビュアー：

ありがとうございました。